

内分泌・代謝・糖尿病学

【単位数：2単位，授業27コマ，予備3コマ（定期試験含まず）】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

神谷英紀 教授（糖尿病内科）

2 教育目標

（1）ねらい（Ⅲ-3-b，Ⅲ-4-b，Ⅲ-5-b）

- ① 糖尿病・内分泌代謝疾患・乳腺疾患に関する医学知識と診療技能の習得に加え，疾患の病態生理に対する科学的探究心を育成する。
- ② 全身におけるホルモンや代謝の病態生理を把握する為，疾患特異的な身体所見と各種検査結果を適切に判断し，その病態生理に基づいた治療計画を的確に立案できることを修得する。

（2）学修目標

- ① 糖尿病・内分泌代謝疾患・乳腺疾患に対して，身体症状から疾患を推測し，適切な検査を計画し，診断できることを修得する。
- ② 糖尿病を症状・症候から推測できる。
- ③ 糖尿病の機能検査と評価ができる。
- ④ 内分泌代謝疾患を症状・症候から推測できる。
- ⑤ 内分泌疾患のホルモン分泌異常に対して適切な機能検査ができる。
- ⑥ 内分泌疾患の各臓器の画像診断ができる。
- ⑦ 乳腺・甲状腺・副甲状腺・副腎疾患の診断と適切な外科治療を考えることができる。
- ⑧ 糖尿病・内分泌代謝疾患・乳腺疾患の治療を看護師等の他の医療関係者と協調して実行できる。

3 成績の判定・評価

（1）総合成績の対象と算出法

	成績 対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	90%	糖尿病・内分泌代謝疾患・乳腺疾患を理解しているか判定するため，定められた定期試験日に筆記試験を行う。 記述式を原則とし，一部多肢選択問題を含む場合がある。
小テスト・ レポート	○	10%	講義に関する小テスト・レポートを行う。
態度	○	—	受講態度が不良の場合は，10点を限度に減点する。

出席：定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

（2）総合成績の合格基準

評価対象の合計が60%以上（又は60点以上）で合格とする。

（3）再試験・再評価の方法と合格基準

上記（2）で総合成績が60%未満の場合は，再試験を実施する。

再試験は定期試験に準ずる試験を行う。60%以上を合格とする。

(4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

- 定期試験の成績についての総括を学内メールで実施する。
- これにより理解が不十分な項目について再確認を促すとともに、定期試験で不合格となった者は再試験に備える。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
内科学 12版	矢崎義雄(監修)	朝倉書店	内科学を全般的に網羅している。
糖尿病学	門脇 孝(監修)	西村書店	糖尿病全般の基礎・臨床の知見がまとめられている。
内分泌症候群(第三版)Ⅰ・Ⅱ	柳瀬俊彦(監修)	日本臨牀	内分泌疾患全般が詳細にまとめられている。
こんな時どうすれば!? 内分泌・脂質・尿酸コンサルタント	深川雅史(監修)	金芳堂	各種内分泌疾患のポイントがわかりやすくまとめられている。
乳癌手術 ビジュアルテキスト	福富隆志(監修)	中外医学社	癌手術手技に関して詳細にまとめられている。
わかりやすい外科学	馬場秀夫(編集)	文光堂	乳腺・内分泌外科疾患全般の知識をブラッシュアップできる。

6 準備学習（予習・復習）

- 日本の内科学における代表的教科書として朝倉書店の「内科学」などを用いて、講義の予習復習を行い知識の整理を行う(1コマあたり約0.5時間)。
- 糖尿病・内分泌代謝疾患・乳腺疾患の各分野のチーム基盤型学習法を行う際には事前に配付資料などを用いて各分野の全体の内容を予習復習する(1コマあたり約0.5時間)。
- 糖尿病・内分泌代謝疾患・乳腺疾患の各分野に関する最新論文を紹介し、興味を惹いた論文に関して講義後にディスカッションの機会を設ける(1コマあたり約0.5時間)。
- 各講義で配付された資料を講義後に内容を再確認し、2コマ目以降の講義に臨む(1コマあたり約0.5時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本は糖尿病・内分泌代謝疾患・乳腺疾患に関する座学による講義を主体とする。

(2) 講義の内容

糖尿病・内分泌代謝疾患・乳腺疾患の分野における総論から疾患の各論を可能な限り詳細に1コマの講義内で説明し、病態診断から治療までを一連の流れで学習できるようにする。また、疾患の各論を学ぶことにより当分野の疾患が互いに連関することを学習し、全身におけるホルモンや代謝のメカニズムを細胞レベルから把握する能力を修得する。